

母子の研究「複式・ガイド学習」

1 校内研修

「子どもの深い学びを支えるつなぐ力の育成～子どもがつくる算数科学習を通じて～」をテーマとして研究を進めてきた。その中で、ひとり学習、おたずね、つなぐ力について、校内研修会などを通じて研究を深めていった。

- ・第1回 校内研修会 5月20日（月）

学 年		単 元 名	指 導 者
複式	3年	かくれた数はいくつ（1）	細見 有美（担任） 【新しく赴任された先生】
	4年	何倍でしょう	

講 師 三田市教育委員会教育研究所 所長 村岡 智行 先生

- ・第2回 公開校内研修会 6月18日（火）

学 年		単 元 名	指 導 者
複式	1年	ひきざん（1）	橋本 直樹（担任） 山崎 丈（共同学習者）
	2年	かくれた数はいくつ	
複式	5年	考えを広げよう。深めよう 同じものに目をつけて	濱田 綾香（担任） 棘木 晶子（共同学習者）
	6年	分数÷分数	

講 師 奈良女子大学附属小学校 教諭 河田 慎太郎 先生

2 算数科教育研究発表



複式学級公開授業



一輪車披露



研究協議会

9月27日（金）

学 年		単 元 名	指 導 者
複式	1年	たしざん（2）	橋本 直樹（担任） 山崎 丈（共同学習者）
	2年	ふえたり へったり	
複式	3年	あまりのあるわり算	細見 有美（担任） 山崎 丈（共同学習者）
	4年	2けたでわるわり算の筆算	
複式	5年	人文字	濱田 綾香（担任） 棘木 晶子（共同学習者）
	6年	変わり方を調べて（1）	

講 師 奈良女子大学附属小学校 教諭 河田 慎太郎 先生

研究協議会より

- ・複式学級によくみられる「わたり」「ずらし」はしない。これらを解消するために、子どもがつくる算数科学習「ガイド学習」を取り入れている。
- ・他教科はもちろん、どの場面でも「おたずね」の力が発揮されている。
- ・「ひとり学習」で学習の準備を整えている。配慮が必要な児童は、放課後などの時間を確保している。
- ・一人学年だけでなくコミュニケーション力を高めたり、配慮が必要な児童を支援したりする「共同学習者」の役割が大切である。
- ・基礎学力支援が必要な児童に対して、○問題を解く時間を確保したり、数多く問題を解いたりする時間（のびる学習）の確保が必要である。

3 複式ガイド学習実施校への講師派遣

本校は、30年以上にわたり「複式・ガイド学習」について、研究を重ねており、一昨年に開催した第56回兵庫県へき地・複式教育研究大会には、70名近くの参加者があり、母子小学校の「複式ガイド学習」を参観された。

また、毎年、兵庫県内の複式ガイド学習実施校から講師派遣依頼があり、今年度は、夏休みや2学期に下記の4校を訪問した。（昨年度も4校）

学校名	三木市立 上吉川小学校	豊岡市立 奥佐津小学校	猪名川町立 大島小学校	豊岡市立 奈佐小学校
訪問日	7月24日(水)	7月25日(木)	11月27日(水)	11月25日(月) 12月11日(水)
課題	複式学級 (来年度)	ガイド学習	複式学級 (来年度)	複式学級スタート (今年度)
内容	複式教育研修 (カリキュラム・教育課程) について	全へき大会発表内容。ガイド学習模擬授業。	複式教育研修 (カリキュラム・教育課程) について	1・2年算数科 複式学級校内研修 (事前研・事後研)

兵庫県内には、数は減ってきているが、小規模で複式を持つ（これから持つ）学校が増えてきている。今回の4校訪問から、ガイド学習を導入、継続していくための教師側の共通した課題も見つかった。

- ・配慮が必要な児童への手立て
- ・つなぐ「おたずね」の仕方
- ・新赴任してきた先生や若い先生への複式ガイド学習の伝授の仕方。
- ・学力差が大きい時のガイド学習のやり方。
- ・他の教科へのガイド学習の応用。

ビデオで母子小の子どもの姿を見たり、模擬授業をしたりすることによって、理解が深まってきた。これからも、兵庫県の複式ガイド学習の発信校として、各校と連携しながらこの学習を進めていきたい。

